



4月度の御書

「兄弟抄」

石は焼けば灰となるが、金は焼けば真金となる。

意味

石は焼けば灰となる。金は焼けば真金となる。

御文

(御書新版1474ページ 御書全集1083ページ)

お題目で、心のかがやく「真金」の人に

やあ、ボクはライオン博士のキング君。1年生のみんな、入学おめでとう！ 上級生のみんなも、また1年間よろしくね！

この「獅子王御書」では、日蓮大聖人が書かれたお手紙や論文をまとめた「御書」を学んでいくよ。「御書」には、信心のすばらしさや大事なことがすべて書かれている。ボクたちにとっての「信心の教科書」のようなものだね。

でも、そもそも、なぜボクたちは、こうやって日々、御書を学んだり、お題目をあげたりして、信心にはげむと思う？

「お友だちと仲良くできるように」「なやみに負けない自分になりたい」……。なるほど～。こうしたみんなの望みどおり、いや、望み以上の自分になっていけるのが、この信心なんだ。今回学ぶのは、ボクが信心にはげむ上で、いつも心に刻んでいる御文さ。

石は焼くと、灰になって、簡単にぼろぼろとくずれてしまふ。ところが金は焼くと、くずれるどころか、さらにかがやきを増してピカピカの真金になる。人も同じように、お題目を唱え、努力を重ねた分だけ、自分をさらに強く、かがやかせていくことができると、大聖人は教えられて

いるんだよ。

ボクも「真金」のような人になろうって、お題目をあげて、心をかみかみしているんだよ。

そんなボクも、うまくいかなかったり、落ちこんだりする時がある。なやみがない方が楽だし、その方がいいなって思うこともあるけど、そんな時にお題目をあげると、苦手なことにも挑戦してみようかなって、不思議と勇気がわいてくるんだ。

そして自分らしく挑戦を続ける中で、気がついたら、決めた目標を達成できていたり、前よりも成長できたと感じたりすることがたくさんあったよ。何より、なやんだ分だけ、ししの子のみんなの、いろんな気持ちがかかる自分になれたことが、かけがえのない「金」の宝物だと思って思うんだ。

池田先生は語られているよ。

「題目を唱えて負けない心を燃やし、努力を重ねる皆さんは、黄金よりも強く明るい光をはなちます。大変であればあるほど、勇気の命をかがやかせ、皆を希望で照らしていけるのです」

この一年、みんなでお題目に挑戦して、何にも負けない「ししの心」をかみかみしていこう～！